明日から体育の授業が深化する

【ゴール】児童生徒の資質・能力の育成

①**知識及び技能**（何を理解しているか、何ができるか）
②**思考、判断力、表現力等**（理解している、できることをどう使うか）
③**学びに向かう力、人間性**（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

手段

主体的・対話的深い学びの実現に向けた授業改善







【土台】教科の指導と生徒指導の一体化



自己決定の場の提供	共感的な人間関係の育成
自己存在感の感受	安全・安心な風土の醸成

合言葉は
『何を指導するかではなく
何ができるようになるか』



そもそも、具体的に何をどうすべきなのかよくわからない・・・。

『特別な授業技術』ではなく、
”子供の学びをどう見るか“です！



千葉県教育庁東葛飾教育事務所指導室

①「学習課題（問い）」をより探究的にする！

【もったいない学習課題例（球技：バスケットボール）】
「相手や味方の位置を見て、空いているスペースを作り攻撃しよう」

→「**動けばよい**」という理解に留まる可能性がある！



【探究的な学習課題例】
「どのように動くと、味方がシュートを打ちやすくなるだろうか？」

①パス ②カットイン ③おとりの動きetc… → 活動を通して生徒は必要だと気付き始める

空間づくりが目的ではなく、**得点の機会の創出を目的**にする

↓

児童生徒の思考が起動する！

（徐々に「空いているスペースが必要だ！」と気付いていく）

② 毎時間、『自己決定』の場を設定する



教師が設定

1. 単元目標

〇学習指導要領を参考に、3年間の見通しをもって設定する。

2. 本時の目標・ねらい

〇単元目標を踏まえ、生徒の実態から正確に見取り設定する。



子供が決定

3. チーム目標

〇授業の振り返りの際、チームの仲間と話し合って決定する。

4. 個人の目標

〇チーム目標を受けて、自分の活動を調整する。（自己決定）

③ 学びは「そろえる」から「伸ばす」へ(Part Ⅰ)

【個別最適な学び】を実現するために







×全員同じゴール ⟹ **○全員が成長するゴール**

R7年度の良い(運動好きが増える)授業例

①レベル別課題の設定
→「できた」から「次の問いが生まれる」

②動画・データ活用
→自分の動きを見える化

③選べる学習
→「やらされる」ではなく「やりたくなる」

深い学びへ

「なぜできない？」

「どうすればできる？」

深化！





自分で考え、自分を伸ばす学習者の育成へ

③ 学びは「そろえる」から「伸ばす」へ（Part２）

【協働的な学び】を実現するために



×ただの教え合い ⇒ ○考えを広げる・深める学び合い

×ただの教え合い

- ●できる子がやり方を説明する
- ●できない子がその通りやる

➡ 思考は片側のみ

- ◆教える側→何となく説明して終了
- ◆教わる側→真似して終了

➡ **理解が浅いまま**

○考えを広げる・深める学び合い

- ●なぜできたのかな？
- ●ほかに方法ある？

➡ 全員が考えを出し合う構造

- ◆自分の考えが揺さぶられる
- ◆より良い考えに更新される

➡ **理解が深化する**

正解の共有で終わってしまってはもったいない！



考えが変わる！広がる！から**深い学び**へとつながる！！

【振り返り】を「次時の学びにつながる時間」に！

【意図のない振り返り】
・個人の反省
・チーム、全体での共有

【予想できる振り返り】

「できた」「できない」
「勝った」「負けた」

【「振り返り」で考えさせたいこと】
□学習課題に対してどのような動きが有効だったか
□なぜ空間をつくることができた（できなかった）のか
□チームの課題は何か
□次時に改善（練習）したいことは何か

※前時の復習に多くの時間をかけることなく学びを連続させることができる！

【振り返り】を「反省の場」ではなく、
「次時の学習の課題を明確にする場」としたい！！